

# 横浜駅周辺大改造計画 中間報告

## (検討状況報告)

- 計画策定にあたって
- まちづくりの基本理念、まちの将来像
- スケジュール

平成19年12月10日 横浜駅周辺大改造 計画づくり委員会



## 1. 計画策定にあたって

### 横浜駅周辺大改造の必要性

・横浜都心は、その立地特性を活かし、空港、港、道路、鉄道が一体的に機能するまちをつくり、活力ある産業の集積とともに、新たな産業や観光資源の創出と活用に積極的に挑戦し、活力と競争力のある国際都市として発展していくことが求められています。

・そのためには、一日に約200万人が利用する首都圏有数のターミナルである横浜駅周辺が、業務、商業、文化、観光全ての面において、横浜都心の核としての機能を果たす必要があります。

### 計画策定の背景

#### ■社会・経済の動き

##### ・人口減少・少子高齢化

横浜市では、平成32年（2020年）頃をピークに人口が減少すると推計されています。また、既に高齢化は急激に進行しており、生産年齢人口は減少に転じています。

##### ・都市間競争の激化

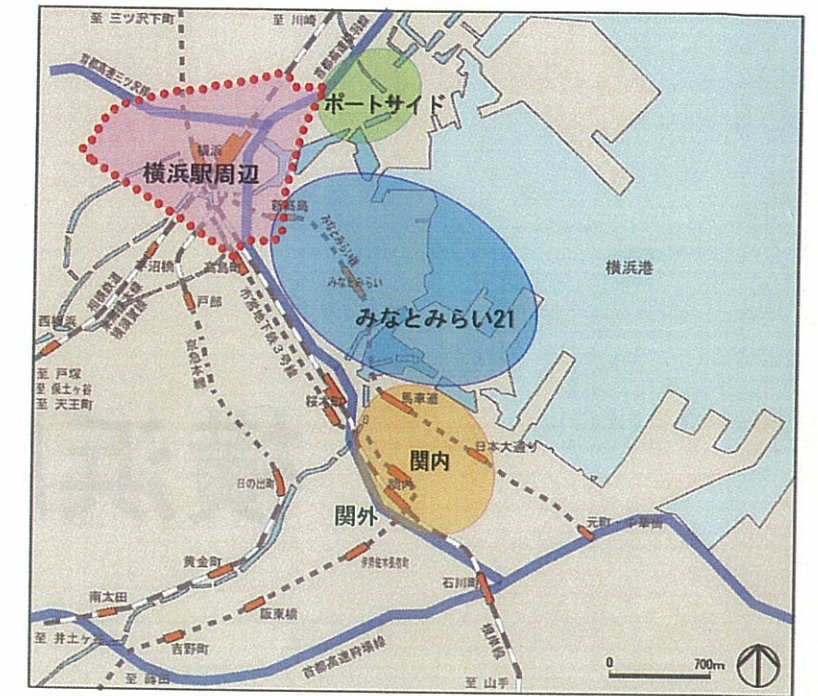
経済のグローバル化が進む中、世界レベルでの都市間競争が進むとともに、日本国内でも投資や観光客等の誘致に向けた都市間競争が激化しています。平成22年には羽田空港再拡張・国際化が図られることから、国内だけでなく、アジアを中心とした海外主要都市を視野に入れた国際競争力の強化が急務となっています。

##### ・地球環境への関心の高まり

地球規模での環境課題の深刻化が進む中、社会全体での環境への意識が高まっています。横浜駅周辺では緑地が少なく、ヒートアイランドが顕在化している状況にあります。

#### ■大改造計画の検討区域

横浜都心（横浜駅周辺、みなとみらい、関内）全体を視野に入れながら、横浜駅周辺のまちの将来像を描き、計画策定を行います。



#### ■横浜駅周辺の現状

##### ・災害に対する脆弱性

横浜駅周辺は、昭和30年～40年代にかけて建設された施設が多く、地震に対する安全度が低い状態にあります。また、平成16年10月には台風の影響により河川が氾濫する等、治水安全度にも課題を抱えています。

##### ・まちとしての魅力不足

横浜駅周辺では、文化・娯楽施設等が他の主要ターミナル駅に比べて少ない状況にあります。また、まち全体がわかりにくく、歩いて楽しい歩行空間や集い憩える広場空間が不足しています。

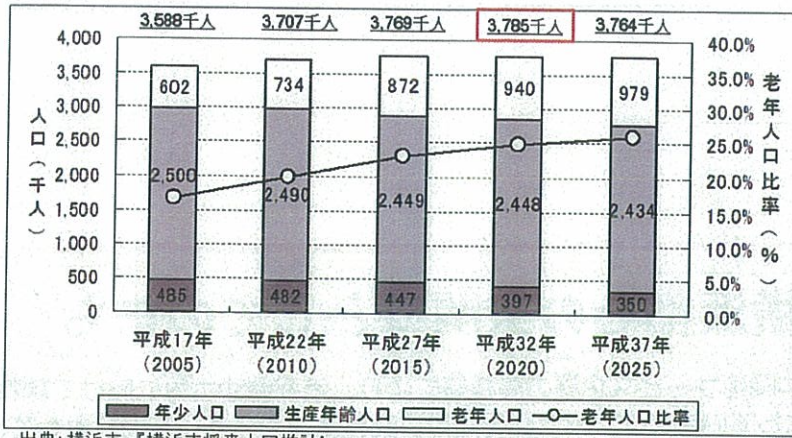
##### ・首都圏有数のターミナル

横浜駅は、東京都区部の主要拠点と直結する5路線を含む9路線が乗り入れ、1日200万人が利用する首都圏第4位のターミナル駅です。また、横浜駅周辺のオフィス空室率は低く、新宿など東京都区部の業務集積地と比べて、同程度の水準にあり、企業の立地ニーズは高くなっています。



# <参考>

## ■横浜市の将来人口推計

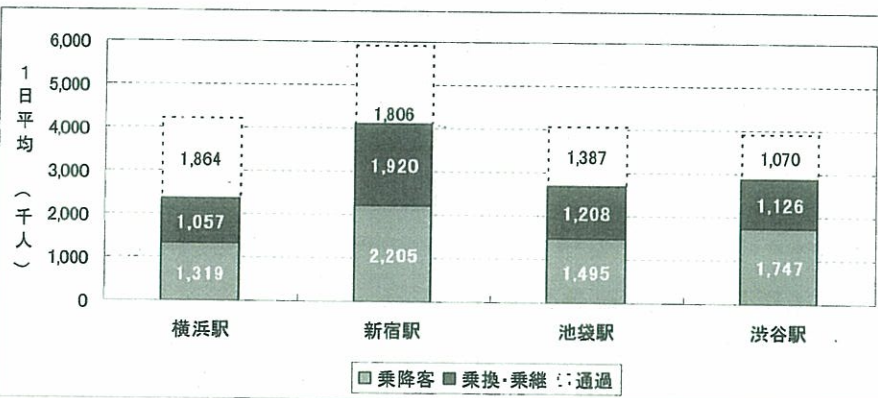


出典: 横浜市「横浜市将来人口推計」

## ■主な施設の建設年次



## ■首都圏主要駅の旅客発着通過状況 (平成16年度)



出典: (財)運輸政策研究機構「都市交通年報」より作成

## ■横浜市基本構想 (長期ビジョン) (平成18年6月策定)

<横浜の都市像>  
市民力と創造力により、新しい「横浜らしさ」を生み出す都市

- <都市像を支える5つの柱>
- (1) 世界の知が集まる交流拠点都市
  - (2) 新たな活躍の場を開拓する活力創造都市
  - (3) 多様な働き方や暮らしができる生活快適都市
  - (4) 市民の知恵がつくる環境行動都市
  - (5) いつまでも安心して暮らせる安全安心都市

## ■かながわ都市マスタープラン (平成19年10月改定)

県土・都市像  
地域の個性を伸ばし、やすらぎと活力を感じる都市 かながわ

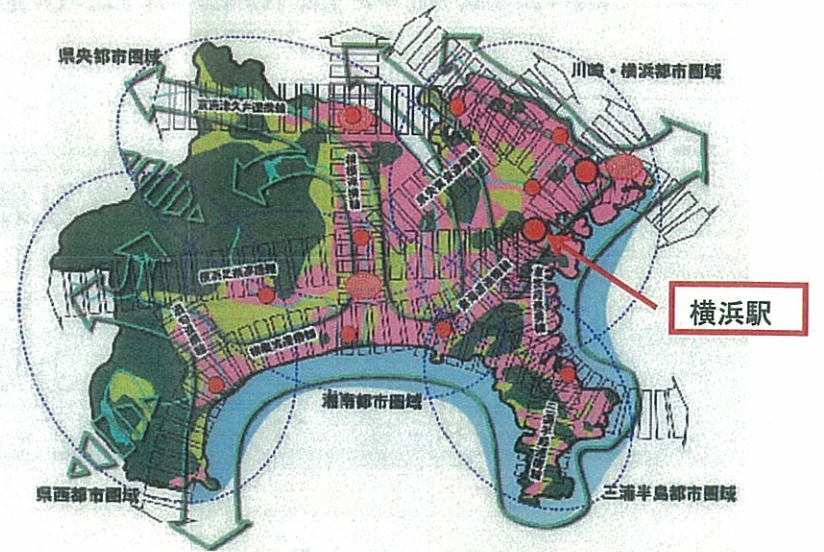
- 県土・都市づくりの方向性
- ・『環境共生』  
環境と共生した安全性の高い県土の形成
  - ・『自立と連携』  
自立と連携による活力ある県土の形成

⇒ 横浜駅周辺 『中核的拠点』…首都圏の中核的な拠点として、複合的な都市機能を集積

## ■横浜市中期計画 (平成18年12月策定)

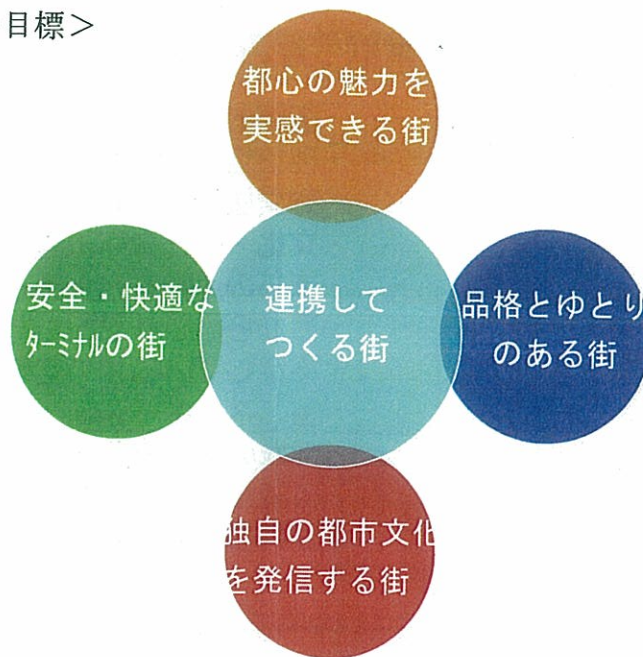
中長期的な都市づくりの方向性 (都市レベルのまちづくり)  
1. 横浜都心 (横浜駅周辺～みなとみらい21～関内・関外)

- ・首都圏・全国・東アジア圏を視野に入れた業務・商業・文化・観光などの機能を強化し、魅力と活気あふれる拠点地区として整備を進めます。
- ・横浜駅周辺、みなとみらい21、関内・関外の3地区の結節点等でプロジェクトを進め、3地区を一体化し、各地区の魅力が重層的に発揮され、世界にアピールする横浜の顔づくりを進めていきます。

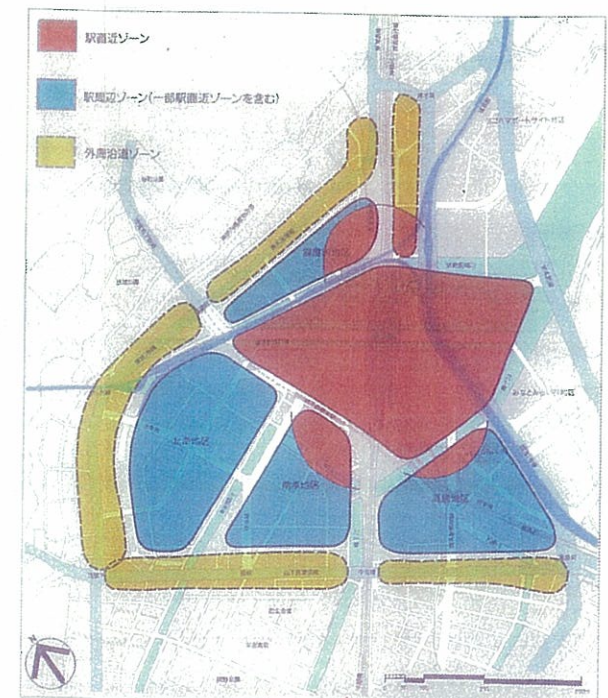


## ■横浜駅周辺地区整備構想 (平成9年4月策定)

<地区の目標>



<土地利用>





## 2. まちづくりの基本理念、まちの将来像

### まちづくりの基本理念

1 安全安心を実感できるまちを目指します

2 都市機能の強化と新たな魅力を創出します

3 新たな環境の創造に取り組みます

4 エリアマネジメントによるまちの運営を目指します

### まちの将来像

#### 国際競争力のある横浜都心の玄関口としてのまち

横浜都心は、時代をリードする企業や関連サービス企業の集積等により、首都圏や世界に向けて誇れる「都市」として、国際競争力を強化していきます。横浜駅周辺は、交通拠点有する玄関口として、横浜都心の活動を支えるとともに、横浜都心の顔としてのまちづくりを進めます。

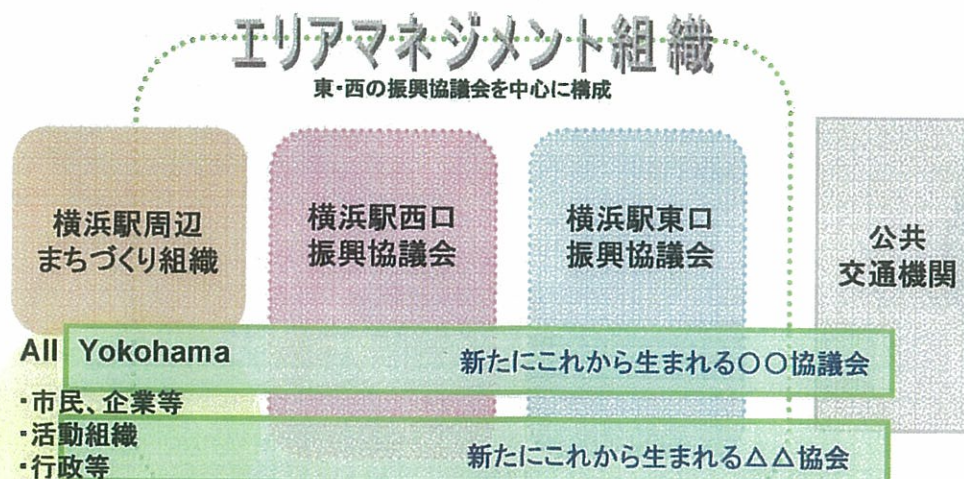
#### 都心の魅力を実感でき、豊かな時間を過ごせるまち

首都圏有数のターミナル駅として、多くの市民の生活を支える広域的な商業機能や都市サービス、立地を活かした業務機能等を集積していきます。また、横浜らしさが感じられる環境整備や身近な文化機能の導入等により、都心としての魅力づくりを進めます。

#### エリアマネジメントが行われている ブランド力のあるまち

まちづくりの計画段階からまちの運営まで、まちの持続的な発展のため、様々な組織が活動し、まちのブランドを形成していきます。

#### ■まちづくりの体制イメージ



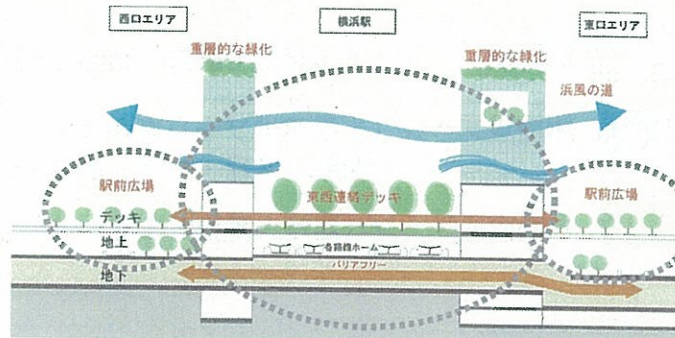
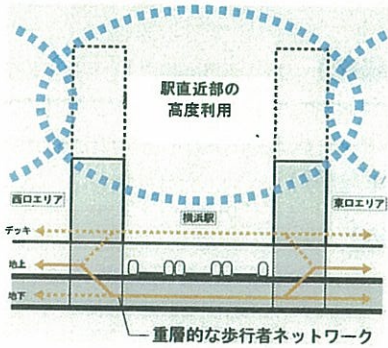
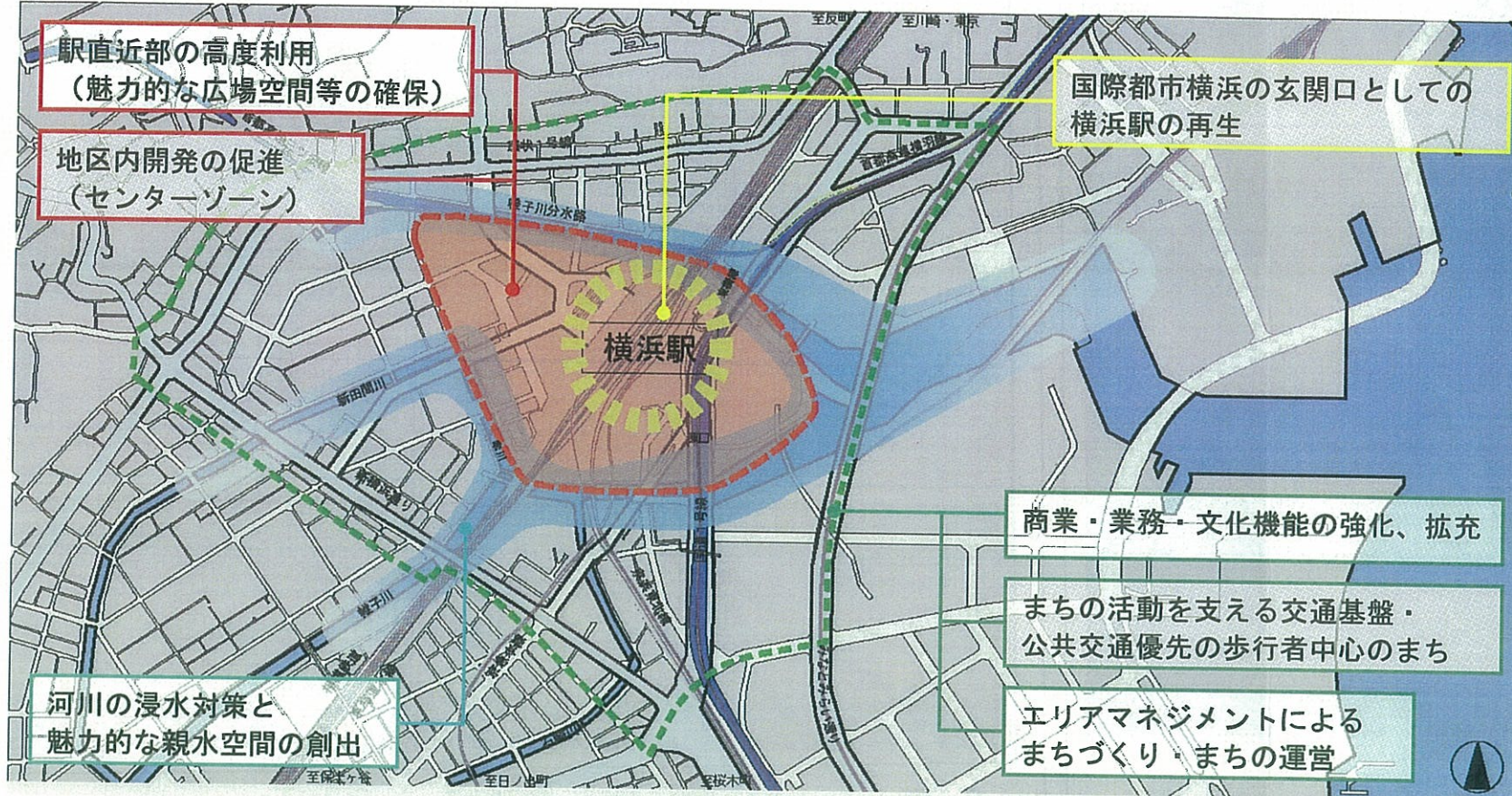
#### ■取り組みイメージ

- ・国際的な企業と関連サービス企業の集積
  - ・羽田空港再拡張・国際化への対応
  - ・商業機能の拡充
  - ・文化・観光機能の導入
  - ・まちの活動を支えるインフラ整備
  - ・海からの風を意識した建物配置
  - ・不足している緑の空間確保
  - ・省エネルギー建物への更新
  - ・地域の資源である河川、海を活かした取り組み
  - ・エネルギー・エコロジー・ランドスケープを包括した環境整備の推進
  - ・公共交通優先の駅周辺・人がスムーズに移動できる交通体系の構築
  - ・防災の視点からの治水対策
  - ・老朽化した施設の建て替えなど再開発の促進
  - ・災害情報ネットワークの整備・運用
  - ・帰宅困難者対策のための空間確保
  - ・バリアフリー対応の推進
  - ・まちのシンボルとしての駅の整備
- 等



## 2-0. まちの将来像イメージ

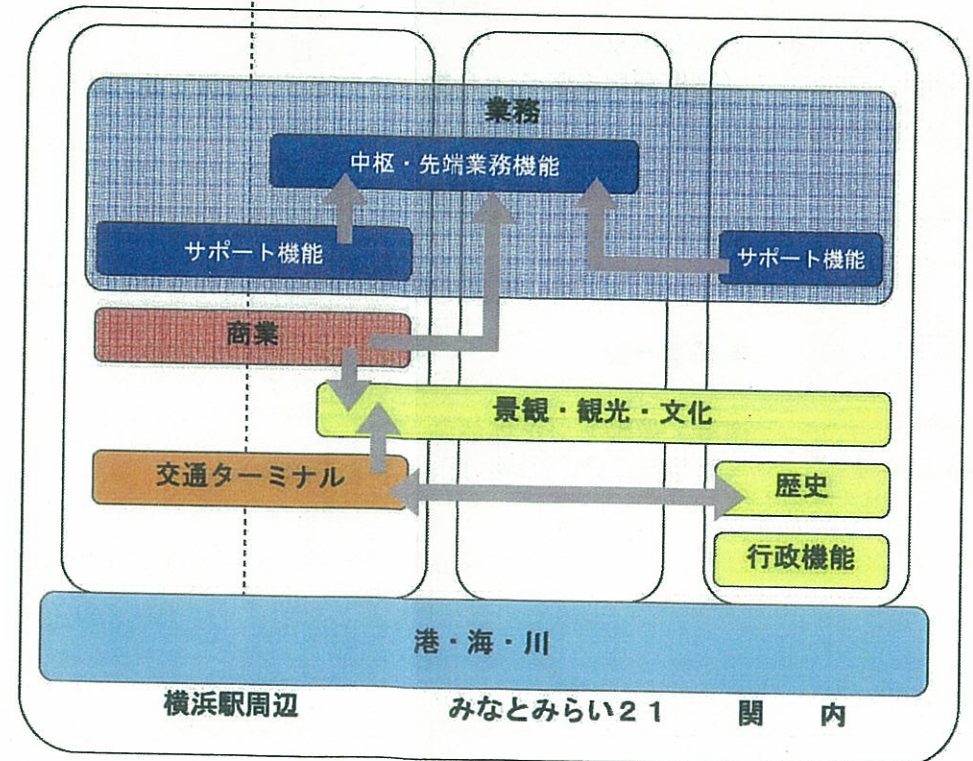
### ■全体将来像イメージ



### ■首都圏の中の横浜都心

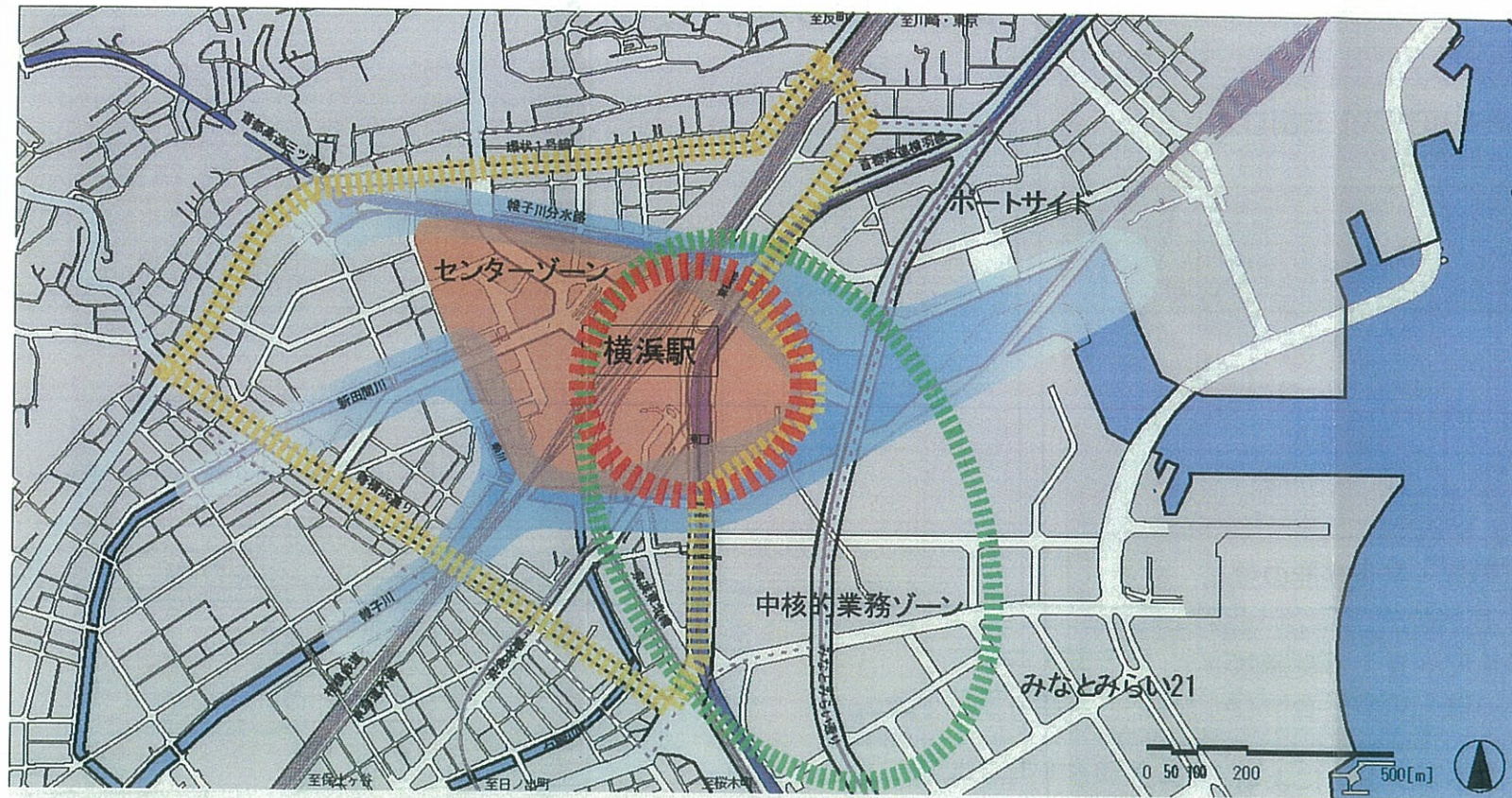


### ■横浜都心の中での横浜駅周辺の役割










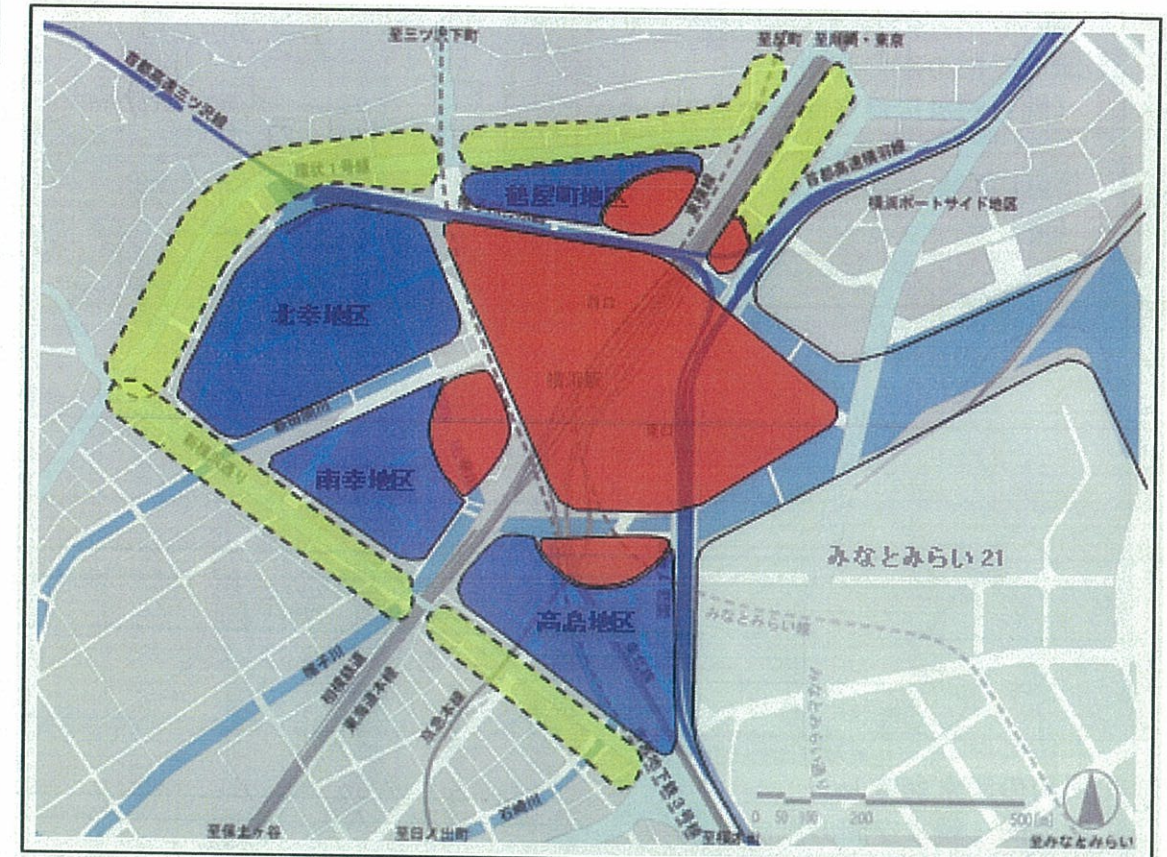
■土地利用イメージ






凡例

-  センターゾーン  
(高度利用を図るエリア (交通施設・商業・業務等))
-  新都市機能ゾーン
-  中核的業務ゾーン  
(日本を代表する企業や国際的な企業の中核機能、次代を担うベンチャー企業等)
-  水際ゾーン
-  商業・業務・文化機能等  
(中核的業務機能をサポートする機能)

■参考 (横浜駅周辺整備構想 土地利用)



凡例

-  駅直近ゾーン (交通施設・商業・業務・駐車場等)
-  駅周辺ゾーン (一部直近ゾーンを含む)  
(商業・業務・文化・住宅・駐車場等)
-  外周沿道ゾーン (商業・業務・住宅・駐車場等)

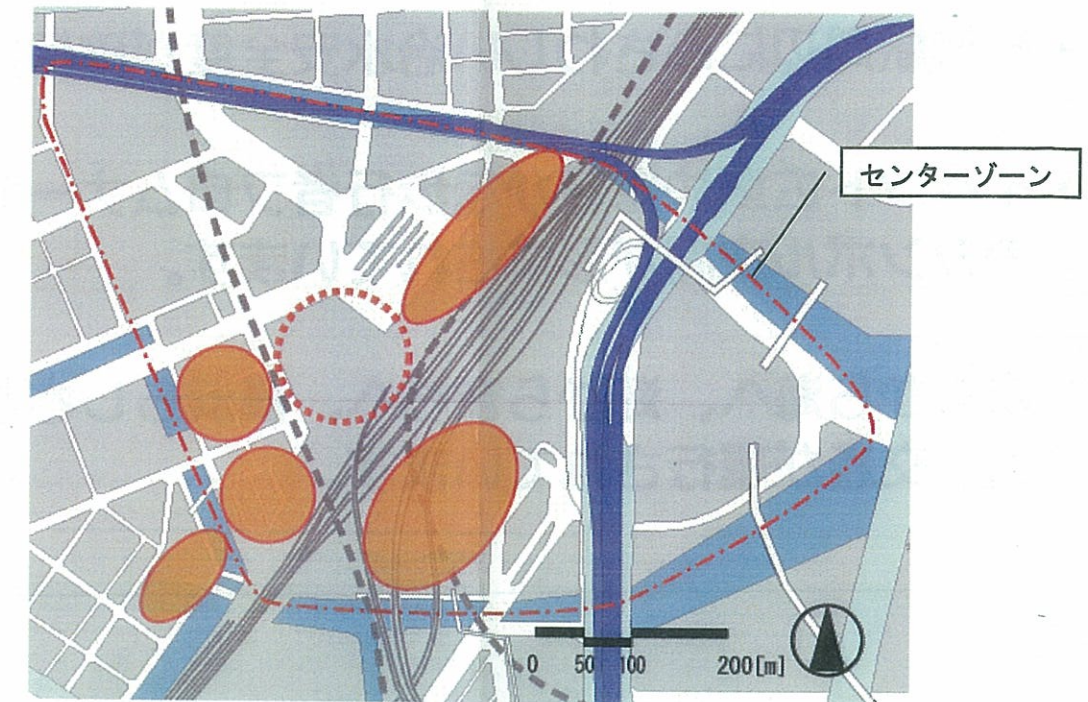


## 2-1. 魅力ある空間軸の形成・まちの拠点整備

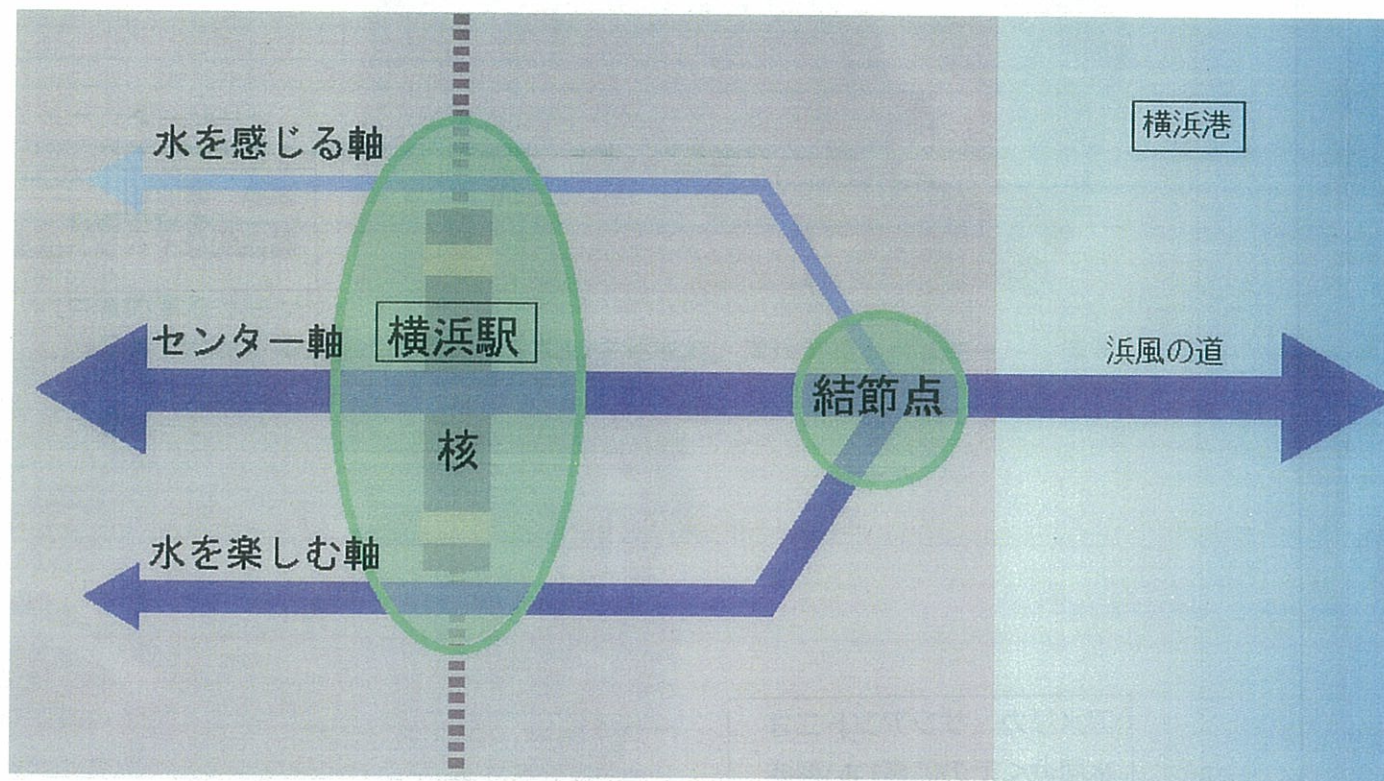
### シンボル軸の形成と拠点整備

- ・海、川、風を意識した横浜らしいシンボル軸を形成し、まちの新たな魅力づくりが行われています。
- ・駅直近エリアでは、再開発により、魅力的な空間が生まれるとともに、先進的な企業の集積と商業機能の拡充がされています。

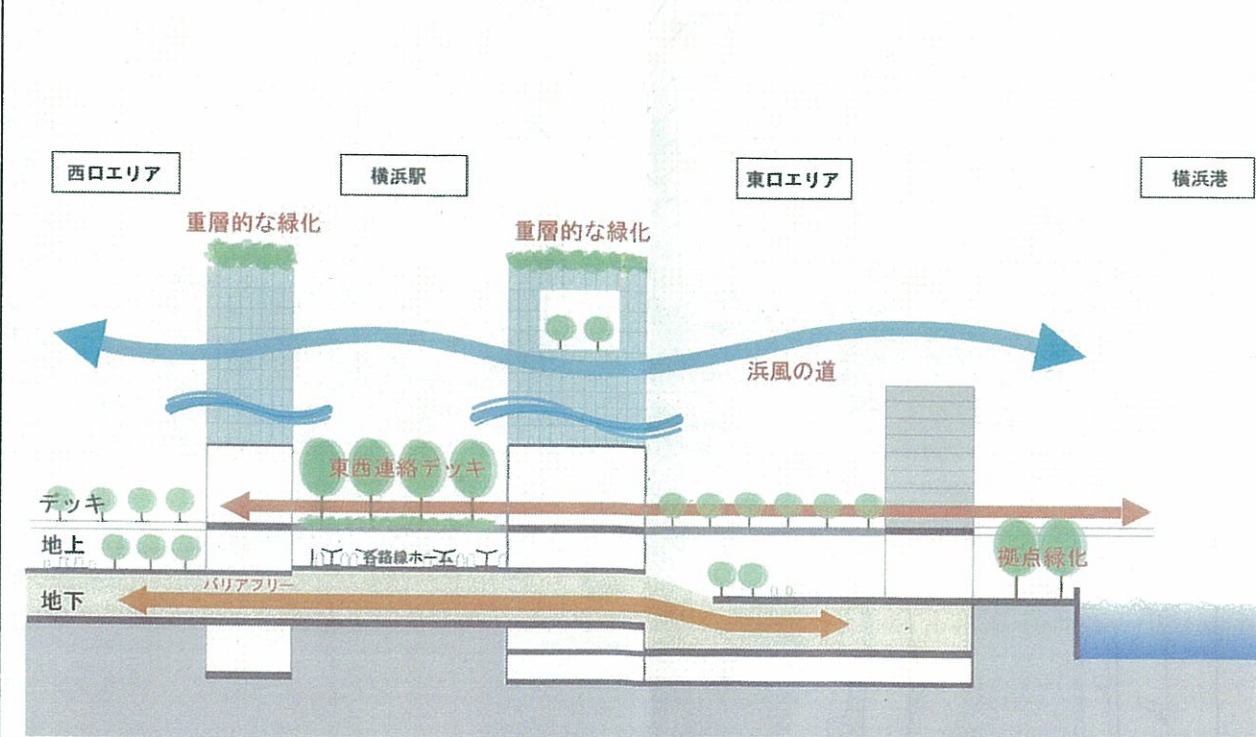
### ■ 先行開発エリアイメージ



### ■ シンボル軸と拠点整備イメージ



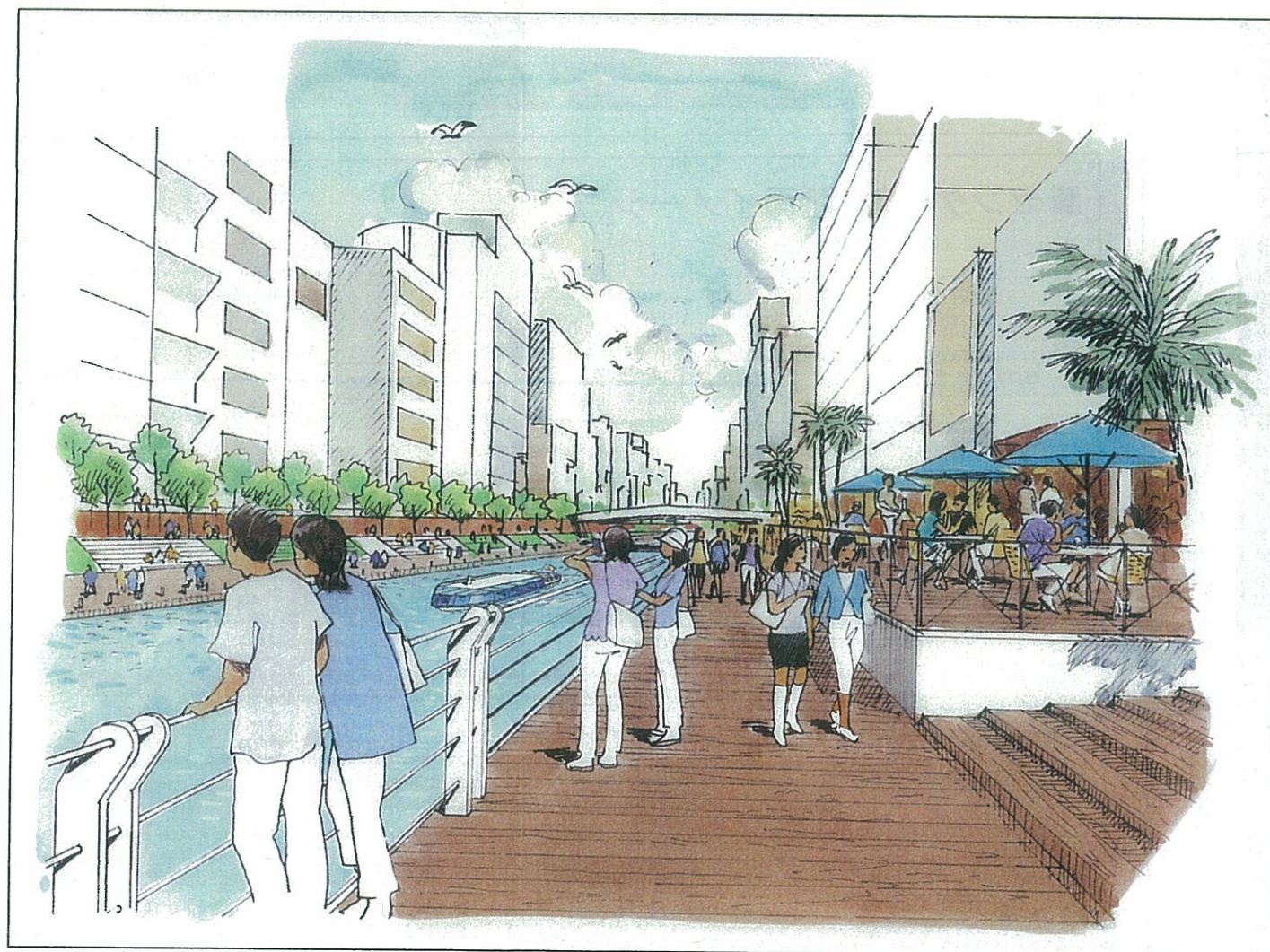
### ■ センター軸 断面イメージ



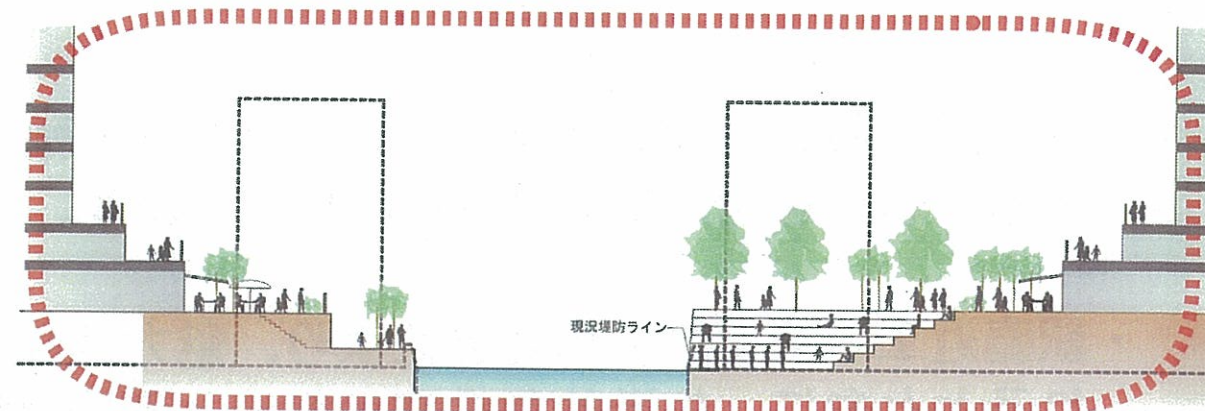


河川空間における新たな魅力の創出と安全安心の確保

- ・ 横浜駅周辺にふさわしい治水安全度が確保されています。
- ・ イベント広場や緑豊かな歩行者プロムナードによりまちのシンボル空間が形成されています。
- ・ まちから海へ、海からまちへ、横浜らしさを感じられる水上交通が運行されています。



■まちづくりに合わせた空間確保



■他都市の事例



徳島 新町川  
拠点的なイベント広場



アメリカ サンアントニオ  
水面近くでのにぎわい形成



### 国際都市横浜の顔づくり

- ・ 横浜らしく、誰もが感動を覚え、誇りに思える駅空間となっています。
- ・ はじめて来る人にもわかりやすく、誰もが安心して利用できる駅となっています。
- ・ 災害時にも、まちの中心として機能する駅空間となっています。

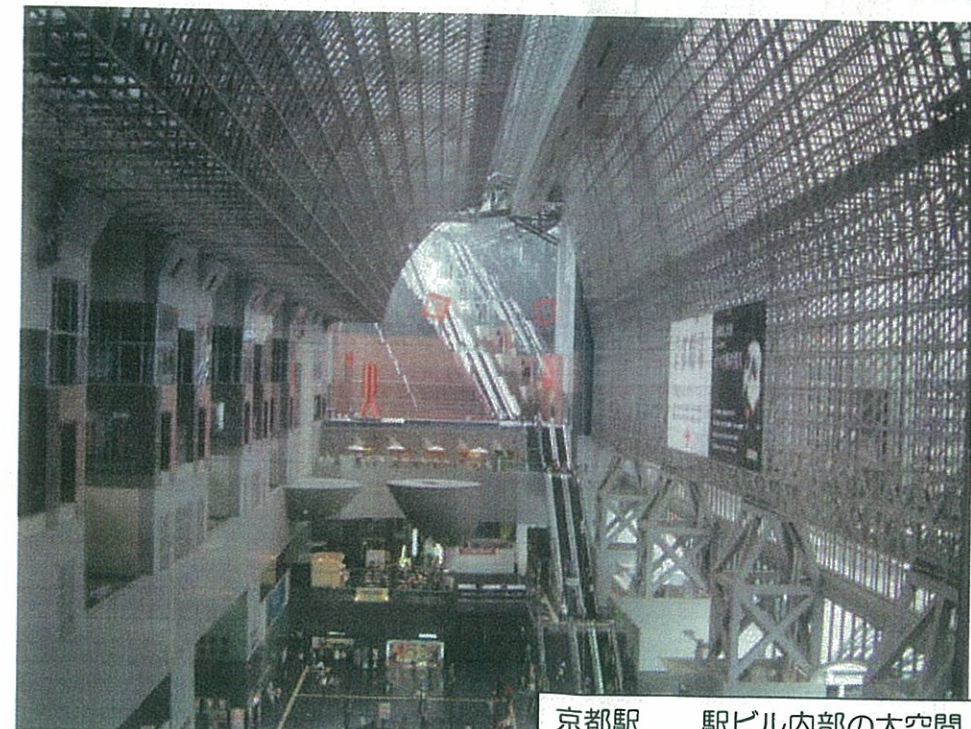
### ■他のターミナル駅の事例



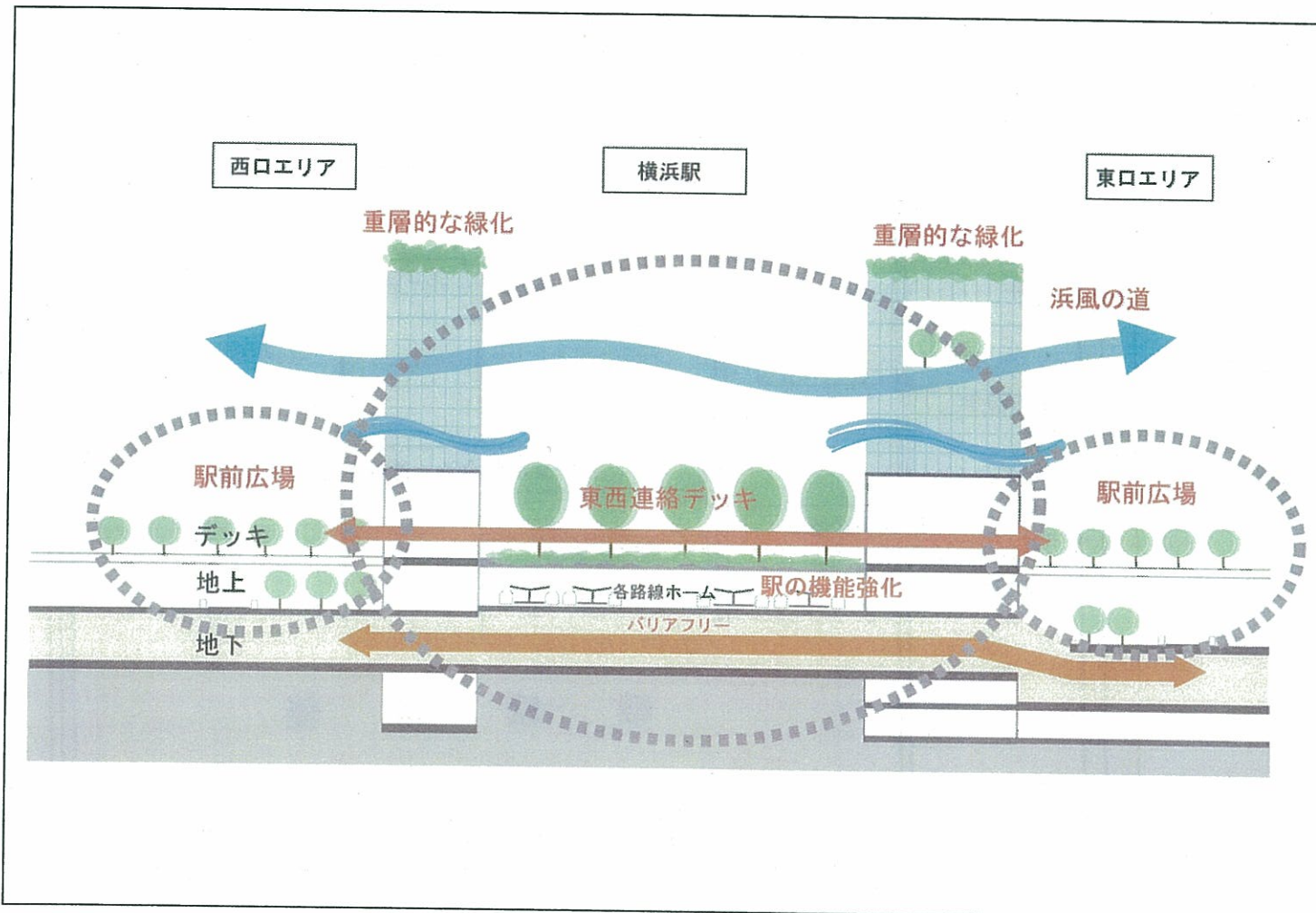
東京駅 歴史的な駅舎の復元、風の道の創出



大阪駅 大屋根設置による開放的な駅空間



京都駅 駅ビル内部の大空間（アトリウム）

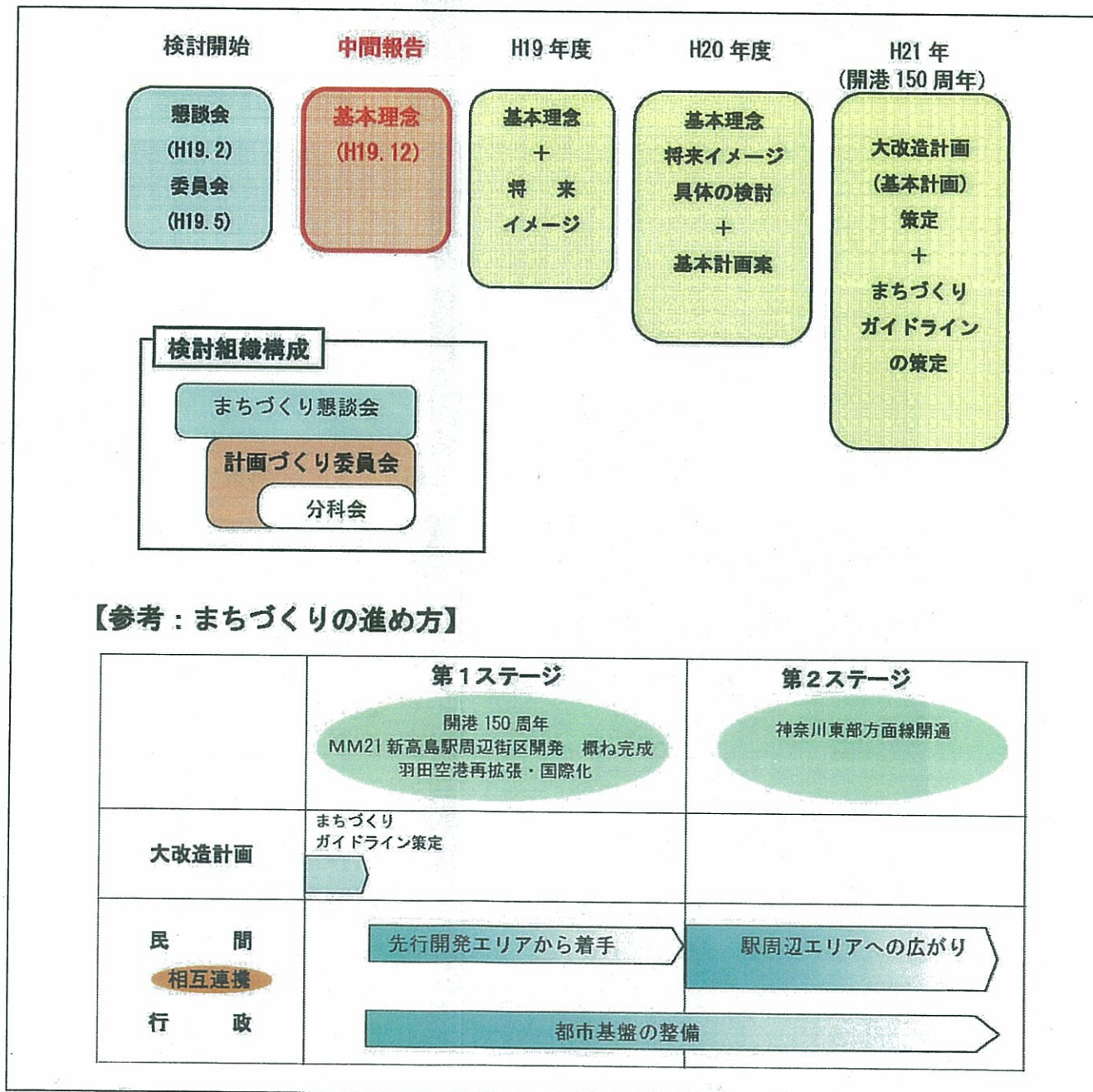




### 3. スケジュール

#### 中間報告の位置付けと計画策定スケジュール

- ・大改造計画は、平成 21 年に策定される予定です。
- ・本中間報告は、「横浜駅周辺大改造計画 計画づくり委員会」で議論した内容を中心にまとめています。
- ・委員会は、次年度も続き、より具体的な内容について、議論を深めてまいります。その前に議論している内容を広く公表し、将来像の方向性について、多くの意見を頂き、共有できる計画となるよう取りまとめます。



#### これまでの検討経過

